

# 平成24年度 檜山広域行政組合消防本部『消防図上訓練(DIG)』実施レポート

平成24年6月28日(木)  
厚沢部町町民交流センター『あゆみ』

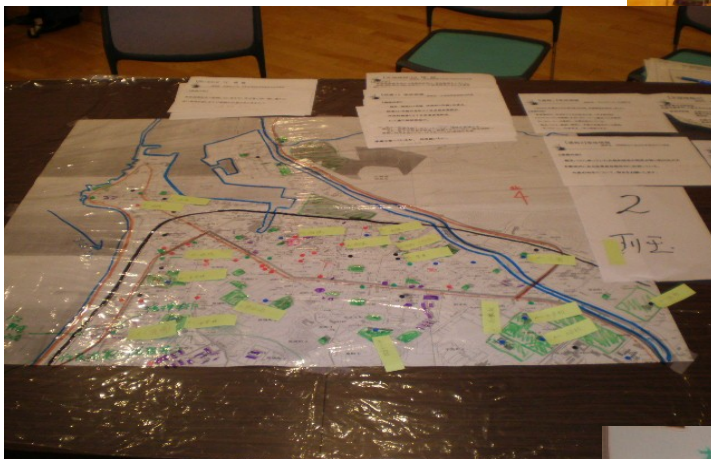


『DIG』とは、Disaster(災害)、Imagination(想像)、Game(ゲーム)の頭文字を取って名付けられた、誰でも参加できる防災訓練プログラムです。

英語のdig(動詞)には、『掘り起こす、探究する、理解する』という意味があり、『防災意識を掘り起こす』『地球を探究する』『災害を理解する』という意味も重ねて名づけられています。

地図を囲んで話し合いながら、自然と防災意識が理解され、我が町の発見ができ、地域のコミュニケーションが図られていきます。

指導講師 北海道消防学校  
藪本 秀彦 氏(主任講師)

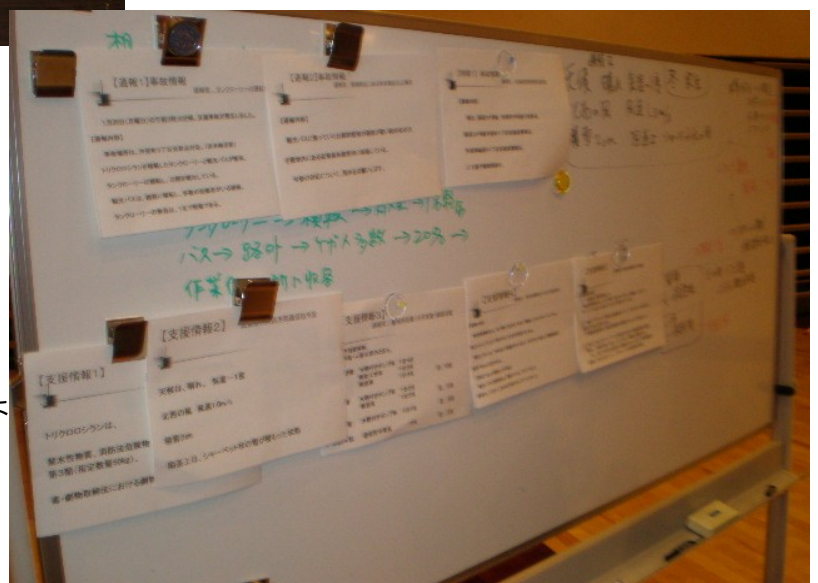


- ①想定被害 国道での交通事故⇒多数の負傷者が発生⇒禁止性物質を積載⇒近隣消防の応援・警察との連携・ドクターヘリの要請
- ②訓練参加職員を4班に振り分け⇒通報・支援情報の収約⇒情報を基に具体的対応を实践
- ③風向・風速等を確認しながら、多数の情報を分析する対応となるが、図上での現場確認・初動体制等、不慣れな指揮命令も目立った。

訓練が進行する中、被害状況は時系列に拡大し、新たな被害情報が追加される。その都度対応策を考え、迅速かつ適切な判断を余儀なくされる。

この『DIG』訓練は今後も継続的に実施され、当管内では大型観光バスによる事故が十分予想されることから、負傷者が多数生じる想定に対し、応援体制・搬送先病院との連携等、平常時から綿密な訓練が必要とされる。

少人数でも可能な訓練であることから、夜勤の職員等による日常的な実施を含め、積極的に行うことが望まれる。住民の避難方法等、広範囲にわたる検討ができ、地域防災活動に有効的な役立てが可能な訓練である。



檜山広域行政組合消防本部・消防課